

公衆衛生看護管理論	3 年・後期	2 単位 30 時間	准教授 島田 昇
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310913

1. 授業のねらい・概要

地域に顕在する，あるいは潜在する健康問題を把握，地域診断の実際を通して，地域住民のニーズの把握方法を学ぶ。また，地域看護行政における運営管理能力や，保健福祉計画の策定，予算化，実施・評価のプロセスを学び，その流れにおける保健師の役割を理解する。健康危機時の管理能力，ケアシステムづくりも併せて学ぶ。

2. 学修の到達目標

1. 地域診断の実際を通して，地域の特性や地域住民のニーズの把握方法を学ぶ。
2. 保健福祉事業計画の策定と予算化のしくみ，および実施・評価について理解する。
3. 地域看護活動における管理的機能と保健師の役割を理解する。

3. 授業の進め方

下記の計画にそって授業を進める。自己学習しやすいように，基本的にテキストに基づいた授業を行うが，社会問題等を随時取り上げ，広く施策化・実施・評価について学びを深める。

4. 授業計画（講義）・・・（講義）（演習）（講義・演習）（実習/実技）のどれかを記入する *改訂したもの

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	公衆衛生看護管理論とは	講義	予習：P503 公衆衛生看護管理についてレポートにまとめる。 復習：公衆衛生看護管理について学んだことをレポートにまとめる。	島田 昇
2	地域診断・地域特性の把握	講義	予習：地域の診断と特性についてレポートにまとめる。 復習：地域の診断と特性について学んだことをレポートにまとめる。	島田
3	地域集団の特性の把握	講義	予習：地域集団の特性についてレポートにまとめる。 復習：地域集団について学んだことをレポートにまとめる。	島田
4	地域診断の実際①	講義	予習：地域診断の実際についてレポートにまとめる。 復習：地域診断の実際について学んだことをレポートにまとめる。	島田
5	地域診断の実際②	講義	予習：高崎市における地域診断についてレポートにまとめる。 復習：高崎市の地域診断の実際について学んだことをレポートにまとめる。	島田
6	地域診断(地域の情報収集)	講義演習	予習：P508 地域の情報収集についてレポートにまとめる。 復習：地域の情報収集について学んだことをレポートにまとめる。	島田
7	地域診断(地域の地区踏査)	講義	予習：高崎市の地区踏査についてレポートにまとめる。 復習：高崎市の地区踏査について学んだことをレポートにまとめる。	島田
8	地域診断(地域のアセスメント)	講義演習	予習：高崎市のアセスメントについてレポートにまとめる。 復習：高崎市のアセスメントについて学んだことをレポートにまとめる。	島田
9	地域診断(地域特性をまとめる)	講義	予習：地域の特性についてレポートにまとめる。	島田

			復習：地域の特性について学んだことをレポートにまとめる。	
10	地域診断(健康課題の抽出)	演習	予習：健康課題の抽出についてレポートにまとめる。 復習：健康課題の抽出について学んだことをレポートにまとめる。	島田
11	地域診断(健康課題への対応策)	講義演習	予習：健康課題のどんな対応策があるかレポートにまとめる。 復習：健康課題の対応策について学んだことをレポートにまとめる。	島田
12	健康危機管理の特色	講義	予習：P512 健康危機管理の特色についてレポートにまとめる。 復習：健康危機管理の特色について学んだことをレポートにまとめる。	島田
13	健康危機管理の基本	講義	予習：健康危機管理の基本についてレポートにまとめる。 復習：健康危機管理の基本について学んだことをレポートにまとめる。	島田
14	地域包括ケアシステムの構築①	講義	予習：地域包括ケアシステムについてレポートにまとめる。 復習：地域包括ケアシステムについて学んだことをレポートにまとめる。	島田
15	地域包括ケアシステムの構築②・まとめ	講義	予習：地域包括ケアシステムの構築についてレポートにまとめる。 復習：地域包括ケアシステムの構築について学んだことをまとめる。	島田

4. 授業計画（講義・演習） * 以前のもの

1. 公衆衛生看護管理論とは 2. 地域診断：地域特性の把握 3. 地域集団の特性の把握 4. 地域診断の実際 ① 5. 地域診断の実際 ② 6. 地域診断（地域の情報収集） 7. 地域診断（地区踏査） 8. 地域診断（地域のアセスメント）	9. 地域診断（地域特性をまとめる） 10. 地域診断（健康課題の抽出） 11. 地域診断（健康課題への対応策） 12. 健康危機管理の特色 13. 健康危機管理の基本 14. 地域包括ケアシステム構築 ① 15. 地域包括ケアシステムの構築 ②・まとめ
---	---

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は3分の2以上の出席した者）70%，課題レポート30%で総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：荒賀直子，後閑容子（2020）：公衆衛生看護学第5版，インターメディカ。

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

シラバスの授業計画の範囲内について，キスト内容の熟読し，予習（60分）程度を行うこと。
受講後は講義内容をノートにまとめる復習（60分）を実施すること。

8. 受講上の留意事項

指定されたテキストの範囲を事前に読んでから授業に臨むこと。また，国家の施策策定，財政，予算などの広い知識が役立つ。日頃から新聞を読みニュースに触れて，政治・経済について関心を高めること。また，図書館を積極的に利用し文献や専門雑誌に目を通す習慣をつけること。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，授業に関係ない言動（スマホの使用等）は慎むこと。

講義時間開始後の無断での教室の入室および退出は慎むこと。

9. 課題に対するフィードバックの方法

試験の解答は試験後に口頭にて解説する。

提出された課題は教員が確認して返却する。内容が不備なものは再提出を求める。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

1 1. 該当する本授業は，以下の実務経験を活かして実施される

行政委託機関および，医療機関での保健師としての勤務経験を活かして，講義・演習を行う。